

鎌ケ谷市医師会では鎌ケ谷市学校教育課からの委託を受け、市内公立小中学校14校を対象に毎年エピペン講習会を実施しております。毎年4校ずつの輪番制で、今年度は鎌小、北部小、鎌中、5中の4校で行いました。期限切れのエピペン(実物)を用いた疑似体験も好評です。



医師会の学校保健活動より



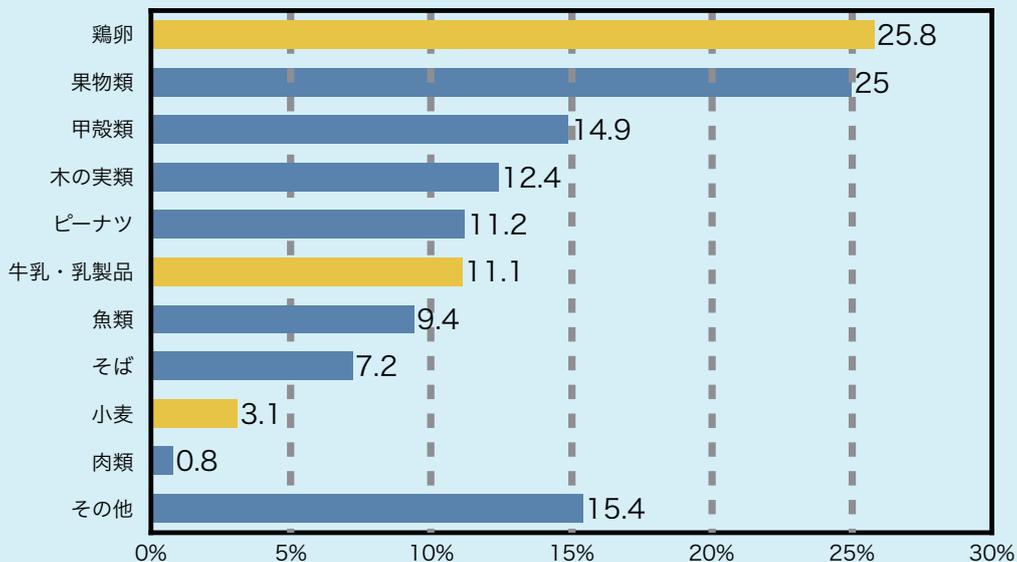
日本学校保健会の調査によれば、食物アレルギーの児童生徒はこの20年間の間に約2.4倍、アナフィラキシーショックを起こしたことがある児童生徒は4.4倍に増加しており、本講習の重要性はますます増大しております。

原因食物についてもこの10年で大きな変化が認められており、かつては卵、牛乳、小麦が3大アレルゲンでしたが、近年は下記のように、果物、甲殻類、ナッツ類、が上位を占めるようになりました。果物が増えた要因は口腔アレルギー症候群(OAS)の増加によるものですが、これは近年の花粉症の増加と明確な相関があります。病態的にはスギ、ハンノキ、カモガヤ等の吸入抗原とリンゴ、モモ、メロン、キウイ等の食物抗原の構造的類似性によるものと考えられています。一説によれば70%の類似により、免疫のミスリードが起こるとされています。口腔や咽頭のかゆみ、イガイガ感が主症状で、アナフィラキシーを起こすことは比較的少ないものの、近年はアレルギー領域で重要な疾患となっています。

令和5年度エピペン講習会

青い鳥こどもクリニック 引田 満

児童生徒・食物アレルギーの原因 (%)



日本学校保健会 2022年 複数回答

各校のエピピン所有者

(令和5年7月現在)

鎌ヶ谷小学校	3本	鎌ヶ谷中学校	2本
東部小学校	2本	第二中学校	4本
南部小学校	1本	第三中学校	4本
北部小学校	2本	第四中学校	2本
西部小学校	4本	第五中学校	5本
中部小学校	9本		
初富小学校	0本	中学校合計	17本
道野辺小学校	5本		
五本松小学校	5本		
小学校合計	31本	合計	48本



ペットボトルを用いた擬似体験

期限切れ実物を使用
押し込む感覚
針の出方
薬液噴出の様子
針の長さ
針の格納の様子

講習会のスライド資料は公開しております。私個人で開設したアーカイブサイト「HKT Archives」の「Workshop」からお入りください。

https://cmmbblue.com/hkt_archives/

